

ルーム・トゥ・リード

2012年度 アニュアル・レポート



読み書きのできる地域社会の 基礎を築く



最高経営責任者から皆さまへ



親愛なる友人の皆さま

ルーム・トゥ・リードのプログラムの心臓部であり、運営方針の中核にあるのは「学び」です。世界中で2億5千万人も小学校年齢期の子どもたちが読むことができず、中等教育を修了しない女子の数が際立って多い現状を受け、私たちは世界規模で、戦略的かつ影響力の強い教育プログラムを実施する大いなる必要性を認識しています。この目的を果たし、可能な限り多くの子どもたちに質の高い教育を提供するため、私たちは常に活動の質を向上し、その規模を広げられるよう、経験から学ぶことに情熱を持って献身しています。

経験から学ぶという姿勢は、アジア、アフリカ地域の子どもたちが読み書きを学びはじめる初期段階において特に難しいいくつかの課題への対策として、最も効果的で統一された包括的なアプローチを築く、という2012年の私たちの取り組みにも反映されました。これらの課題には、教員向けの教育や支援の不足、理解よりも暗記に焦点を置いた教育、また指導用資料の不足などがあります。こういった問題に対処するため、私たちは読み書き能力育成プログラムを進化させ、現職の小学校低学年の教師たちを対象に、子ども中心のインタラクティブな教授法を推進する国際的なベストプラクティスに基づいたトレーニングやコーチングの実施に主眼を置きました。ルーム・トゥ・リードのプログラムに参加する献身的な教師たちは、この支援によって向上した技能を武器に、現在では豊富な教材をつかって、よりエキサイティングな教室環境を作り、読み書き能力の習得を効果的に助けるインタラクティブな指導を行っています。

こうした新しい教員向けトレーニングと合わせて、年齢相応で子どもの興味を引く現地語の読み物にあふれたルーム・トゥ・リードの図書館・図書室はアジアやアフリカ各地の教室でさらなる学びへの意欲を生み出しています。このように体系化された支援を受け、子どもたちは今まで以上に速く、そして高い習得度で読み書きを身につけています。

私は、2012年のベトナムから南アフリカへの旅の中で、ルーム・トゥ・リードの小学校1年生を対象としたプログラムに参加した生徒たちに変化が生まれているという教師たちのコメントを読み、とてもうれしく思いました。彼らは、2年生に進級する生徒たちの読む力が今までの教師生活を通して見てきた中で最も高いレベルであり、この素晴らしい学習の歩みは2年次においても継続していると話してくれました。

読み書き能力育成プログラム向上への取り組みに加え、私たちの2012年はまた、女子教育支援プログラムの展開と質の向上、特にライフスキルトレーニングの分野に注力した年でもありました。プログラムを構成する要素を定義し、活動国それぞれの背景に合わせてプログラム要素ごとに適応できるようにすることで、私たちはクリティカルシンキング（批評的思考）からキャリア計画に至るまで、プログラムに参加するすべての女子生徒が、自立の助けとなるスキルをより確実に身に付けられるようサポートすることができます。さらに女子教育支援プログラムでは、女子生徒たちが高等教育過程で勉学を継続するための支援を受ける機会を得られるよう新しいガイドブックを作成しました。

ルーム・トゥ・リードが革新と進化を目指し、活動に対して積極的な姿勢を維持し続ける一方で、私たちはまた新たなパートナーシップからも学んでいます。大学との連携により、調査やモニタリング、評価の活動を補強して、子どもたちの読書嗜好や能力開発に対してより深い洞察を得ることができるようになりました。また技術面でのパートナーシップは、現地スタッフに新しいノートパソコンやタブレットを提供してデータ収集の効率性を高め、学生たちの進歩やニーズに対する迅速なフィードバックを可能にしてくれています。

この2012年度アニュアル・レポートで、2012年のこういった取り組みやその他の主要な活動について、ぜひ皆さまに詳しく知っていただきたいと思えます。これらのどれ一つを取っても、皆さまのご助力なしには達成し得ませんでした。私たちルーム・トゥ・リードのスタッフ一人一人は、質の高い教育の力をもって、アジアやアフリカの子どもたちの最大限の可能性を引き出すための必要かつふさわしい機会を提供するという、私たちの活動にお力添えくださっている皆さまのパートナーシップに心からの感謝を申し上げます。

Erin Ganju

エリン・ガンジュ
最高経営責任者 兼 共同創設者

共同理事長から皆さまへ



親愛なる友人の皆さま

ルーム・トゥ・リードにとっての2012年は、まとも影響力のあるエキサイティングな年となりました。まずは、ここまでの前進を可能にするためのご支援を下された皆さまへの大きな感謝の意をお伝えしたいと思います。教育なしに今日の私たちは一人として存在しなかったということは、今さら言うまでもありません。私たちの多くは幸運なことに、適切な場所に適切なタイミングで生まれ、運に味方された機会や重要な影響力を持つ人々に助けられました。小さな町の中流階級の家庭で育ったジョンは、住んでいたコミュニティや通っていた公立学校の両方で図書館や図書室を多に利用しました。ティムは奨学金やアルバイトで資金を得ながら、数カ所の大学で学士号を取得しました。私たち二人にとって教育は、助けられながらより高みへと引き上げるものであり、ただの施しで与えられるものではありませんでした。

人とも学校へ行く機会に恵まれ、懸命に努力して夢を追い、その過程で素晴らしい教師たちに助けられたことが幸運であったことを認識しています。だからこそ、私たちはここまでルーム・トゥ・リードに献身し、皆さまと共にその道を進めることに感謝しているのです。私たちは世界中の子どもたちが、その性別に関わらず、然るべき教育の機会を受けられることを願っています。これこそ、私たちが将来の学習のすべてにおいて要となる読み書き教育と、男女格差のない教育の促進に主眼を置く理由です。世界中の誰もがそれぞれの可能性を実現する機会を与えられるべきだと信じるからです。性別に関わらず、誰もが教育を受けた世代で世界が満たされるとき、進歩は本当の意味で起こり始めます。

世界中でプログラムを拡大する中で、男女共に子どもを学校へ送ることを支持する家庭が増えていくように私たちはワクワクしています。

彼らの将来を変えると分かっているからこそ、子どもたちの教育に努力を惜しまない保護者と顔を合わせると、感激すると同時に謙虚な気持ちを感じます。そんな保護者の一人であるベトナムのヘップさんは、2人の娘と1人の息子を学校に通わせるため、毎日深夜1時に起きて大工の仕事を始め、4時間しか睡眠時間を取らないという献身ぶりです。彼はこういった努力について、「子どもたちに土地を与えれば、彼らはそれを売ってお金を使ってしまうこともできるが、教育を与えればそれは一生ものです」と説明してくれました。


私たちは教育の威力について、このヘップさんの信念を共有しており、こうして世界中でルーム・トゥ・リードの存在を拡大させようと絶え間ない尽力を捧げているのもそのためなのです。2012年、この努力はいくつかワクワクするような新たなマイルストーンの達成をもたらしました。インドでの5,000室目の図書室の設立、最も新しく加わった国であるタンザニアで初めての15校舎が完成、そして女子教育支援プログラムには2万人目の奨学生が加わったことが、その例です。昨年全体で、私たちのプログラムを通して支援を届けることができた子どもたちの数は110万人を超え、これまでで合計780万人以上の子どもたちの教育に手を差し伸べることができたこととなります！この何百万人も子どもたちが教室で肩を並べ合いながら成長し、新たな夢を追いかける自信をつけていく中で、彼らは教育の力を信じる、変化を起こす強力な促進力となっていくでしょう。

世界レベルでの読み書き能力の普及と男女格差のない教育の実現は、大胆な目標です。しかし、この活動の手が届く生徒が一人増えるたびに、私たちは性別や生まれる場所が個人の運命を決定しないその日にまた一歩近づくこととなります。世界中の子どもたちに質の高い教育の機会を届けるという私たちの探求にご参加下さっている献身的なパートナーの皆さまに、感謝の意を申し上げます。皆さんのたゆまぬ情熱と意欲、ご支援があってこそ、私たちはアジア、アフリカ全土にわたる各コミュニティにおいて、教育が手の届かない夢ではなく、誰にも与えられる権利として息づく尊厳の文化を築いていく手助けをすることができました。

ジョン・ウッド
創設者 兼 共同理事長

ティム・クエグル
共同理事長





読み書き能力向上 における実績

ルーム・トゥ・リードの読み書き能力育成プログラムを通して、小学校の子どもたちは一生自分の力でものを読むことができる大人へと成長することができます。

革新への一



道

イノベーション（革新）に対する信念は、ルーム・トゥ・リードの中核の理念です。

一組織として、私たちは目標を達成し、教育プログラム開発の最先端に立つリーダーであり続けるため、新たな道を切り開くことを恐れることはありません。2012年に教師、図書館職員、その他活動を行うコミュニティの利害関係者向けのトレーニングに対する注力を高めたこともその一例です。トレーニングは、教育プロジェクトのサステナビリティ（長期維持可能性）を示す最大の指針の一つであるからです。私たちはまた、活動地域の国々で子どもの読み書き能力を向上させるうえで障壁となっている問題／不足要素を明確にし、対策を実施してきました。

図書の時間を最大限に活用



学校における図書の時間を設けること、つまり1週間の中で生徒たちが図書館の資料を使い、本を借りることができる時間を別途確保することは、子どもたちの読書習慣を促すうえで中心的な役割を果たします。図書のために確保するこの時間の多大な重要性から、私たちのチームはこの1年間、この時間に行うべき主要な取り組みを定めたガイドラインを決定し、取りまとめてきました。

ベトナムの教育省は、ルーム・トゥ・リードの学校図書館が公立学校の生徒に与える影響力を認め、カントーとタイグエンの2つの省において、図書の時間の効果的な活用を促進するルーム・トゥ・リードのガイドラインを全学校を対象に採用しました。この決定は、私たちの活動に対する驚くほどの支持を象徴するものであると同時に、現時点でまだルーム・トゥ・リードの直接の支援を受けていない230校の92,120人もの生徒たちに、私たちのプログラムの価値を届ける手段ともなってくれます。

暗号を解読する



よどみなく読む力は、「言葉の解読」と「読解」という読み書き能力における2つの主要素の橋掛けとなります。これは、ページ上の言葉をどれくらいの速さで正確に

読み取ることができるかによって定義され、子どもの読み書き能力の伸びを評価するために世界中で広く用いられている指針でもあります。しかしカンボジアでは、クメール文字の複雑性から、クメール語のフルーエンシー（流暢さ）を評価したり、同言語を使って読む子どもたちを対象に目標を設定したりという試みは、ほとんどなされてきませんでした。

この問題に向き合うべく、私たちのカンボジアチームは全国的に評価を受けている言語学者と協力し、「暗号の解読」に挑みました。私たちが活

動を行う学校の生徒たちの読むスキルと理解力を評価することで、チームは1年生から3年生レベルで目標とすべき読む速度／流暢さの基準を設定することに成功しました。これに助けられ、ルーム・トゥ・リードおよびプログラムに参加する教師たちは、初級読者向けのプログラムの共通水準に照らし合わせながら、より正確に生徒の進歩を把握し、最も必要としている生徒にサポートを集中させることができました。

スキルと習慣をつなぐ



読むことを学んでいる子どもたちにとって、1年生や2年生の時に教室で学んだ言葉から図書館の本棚に並ぶ物語の本へのステップアップは高い壁であるかもしれません。2012年、この前進

よりスムーズな過程にできるよう、ルーム・トゥ・リードの現地語出版および読み書き能力育成プログラムのバングラデシュチームが連携し、ルーム・トゥ・リード初となる「解読可能な」読み物の開発を開始しました。

解読可能な教材というのは子どもたちが学校で学んでいる音だけを含む本で、生徒たちが新たな知識を吸収していくに従ってその長さや難易度も増していきます。教師にとっては、初級の読み書きスキルの教授と、読書の習慣を通して子どもたちの理解力向上を促すという2つの目的を結ぶ、重要な架け橋となります。最初の解読可能教材は、2013年に作家・イラストレーター対象ワークショップで制作される予定です。ルーム・トゥ・リードが毎年行っているこれらのワークショップでは、参加者たちがこういった特別な物語を制作するために必要なテクニックを学びます。

読み書き能力向上における実績

プログラム効率性の一



向上 これまでのルーム・トゥ・リードの重要な成功材料の一つとなっているのが、プログラム改善に対する継続的な専心です。これは設計に加え、様々な状況においてより戦略的なプログラムの実施を可能にするため、長年の経験を生かしながらプログラム運営の強化に熱意やリソースを注ぐことを意味します。

この取り組みにおいて、2012年には、プログラムの改善を試験的に行い、コスト削減のため運営を見直し、また私たちのより効率的な事業活動を助けるパートナーを特定しました。

正しい土台を



建築資材は私たちの建設活動の中で最もコストのかかる要素であり、特にアフリカにおいてそれが言えます。提携コミュニティが、現金や労働・資材による現物寄付で建設プロジェクトに共同で投資する、私たちのチャレンジ援助モデルを持ってしても、高額な建築資材費が難点であることに変わりはありません。こういったコストの一部削減を目指し、ルーム・トゥ・リードのザンビアチームは、3年連続でセメント製造のグローバル企業であるラファージュ社と提携し、全ての図書館建設において寄付されたセメントを使用することができました。こういった尽力によって、胸を張れる高いクオリティでの建設を保証できるだけでなく、ルーム・トゥ・リードの限られたリソースの中から、そのより多くを図書館管理のトレーニングや備品、教材に充てることができます。

印刷費の切り詰め



ルーム・トゥ・リードの800冊目のオリジナル現地語図書が出版に至り、私たちのチームは現地語出版プログラムのコスト効率性の向上に一層注力を傾けました。ピアソン財団とのパートナーシップの下、私たちは編集者と協力して向上を目指した戦略を起案し、これらの推奨案を元に運営の改善を図りました。これにより、世界規模の大幅なコスト削減が可能となりました。

特に印刷費が高額なタンザニア、南アフリカ、ザンビアでは、私たちのチームが複数の価格交渉を行い、75社以上の印刷業者から価格見積りを取りました。コスト効率性を上げるため、仕上げ寸法も、時にはミリ単位で調整されました。こういった努力が合わさって、2013年以降の本1冊あたりの費用見積りを大幅に削減することができました。

修理と改装



過去の学校建設プログラムでプロジェクトサイトを決定する際、私たちが注力していたのは新たな建設のみであり、古い教室は、たとえ私たちが有効と認める学習環境水準を満たしていなくても、そのままの状態に放置するのが常でした。2012年、実証例を元にし、学校の基礎構造の中で学習に最も大きな影響を与える要素を定義した調査を参考に、私たちはバングラデシュ、カンボジア、ネパールの学校で初の修理&改装プロジェクトを始動しました。かかった費用は全て、教室を新たに建設する場合の半分以下でした。

照明と空調をより良いものに換え、新しい備品や天井を入れ、損傷のある床、屋根、壁や黒板の修理を行うことで、構造的には問題のなかった建物内の学習環境を大きく改善することができました。これらの初期プロジェクトの成功を元に、私たちは今後継続して、修理と改装を学校建設プロジェクトの中核に組み込んでいきます。

読み書きの文化を—



築く

留まる事のない識字率の向上と、子どもたちの読書習慣を実現するため、読み書きの文化を地域社会における全てのレベルに浸透させることが不可欠です。保護者やその他の利害関係者をプログラム活動に参加させることで、私たちは読むことが単に尊重されるだけでなく、毎日の生活の本質的な一要素となる環境作りを目指しています。

図書館・図書室プログラムから現地語出版プログラム、学校建設から読み書き能力育成プログラムに至るまで、私たちは常に学校の経営陣と密に連携し、コミュニティ参加型の活動が確実に優先されるよう努めてきました。この1年もそれは変わらず、2012年、私たちはベストプラクティスを記録し、活動の質を向上させるためのグローバル指針の作成に注力しました。各国の現地チームは、アジアやアフリカに広がる全提携コミュニティにおいて読み書きの文化を築くため、新しい独自の方法を見出し続けてきました。

読み聞かせの伝統を尊重する



テープレコーダーとノートを携え、ザンビアの現地語出版チームは、国に深く根付いた読み聞かせ（ストーリーテリング）

の伝統と読み書きを促進する私たちの活動との橋渡しをすべく、探求に乗り出しました。チームはザンビアの東の州全域の村々を訪れ、コミュニティの長老たちを招いて、それぞれの地域社会において文化的または歴史的な意義の大きい民話を共有してもらいました。こうした機会を通じて得られた記録は、今後のルーム・トゥ・リードの作家・イラストレーター対象ワークショップで活用され、若い読者たちを対象にした物語の本へと姿を変えていく予定です。

放送波の活用



私たちの図書館に対する認知度を高め、周囲のコミュニティの読み書き能力を促進するため、カ

ンボジアチームは放送波の一度のラジオ番組で、子どもたちや保護者に番組に電話をかけてお気に入りの本を読んでもらう呼びかけ、放送中にそれぞれのお話について語ったり、読書に関するその他の話題を取り上げたりしています。私たちの提携校の子どもたちが伸びつつある読み書き能力を披露できる機会となるだけでなく、現地の住民たちに読むことの大切さ（そして楽しさ！）を再認識してもらおうと、このラジオ番組は非常に大きな成功を収めています。

模範となる行動



私たちが活動を行うコミュニティの大半の大人たちは読み書きができないため、初めは図書館・図書室プログラムに怖気

づかれることもあるかもしれません。私たちのインドの提携校の一つでは、保護者のそういった不安や疑問を取り除くため、村のセンターに見本の図書館を設置しました。机やイス、幾袋分の本や臨時の棚を用意して一日だけ開設されたこの見本図書館は、コミュニティの人々が新たに開設された学校図書館で利用できるリソースをより身近に見ることができる機会となりました。学校の生徒たちが図書館職員として参加し、教師たちも立ち会って、コミュニティの保護者たちが参加できる様々なボランティアの機会について説明しました。

活動をカスタマイズする



ラオスでは、都市と田舎両方のコミュニティにおいて、様々な環境条件の下で読み書き能力育成プログラムを運営しています。この

ことは、私たちのプログラム活動への保護者の参加に影響を及ぼします。例えば、農業が中心のコミュニティでは、収穫時期になると多くの保護者が集会や催しに参加できない一方で、より都市型の地域に住む保護者たちは、従来の勤務時間帯の朝9時から夕方5時の間は時間が取れないという具合です。この問題に対処すべく、2012年、私たちのチームはコミュニティ毎に適切な保

護者参加プランを作成しました。この新たな形式を導入してからは、私たちが現在運営する全ての学校で高い保護者参加率が報告され、さらにその成果は、何千人もの参加者が集まった9月の国際識字デーの式典の成功につながりました。

コミュニティリーダーの関与



保護者ボランティアの数を増やすことを目指して、南アフリカの農村地域リンボポ州とムプマランガ州の図書館・図書室

プログラムチームは、学校の経営陣と協力して周辺コミュニティの部族長らと協議の場を設けました。話し合いでは、図書館の活動に対するコミュニティの参加率を向上させることに焦点が置かれ、結果、保護者ボランティアの増加や識字関連イベントにおける出席率の向上につながることができました。活動を行うコミュニティの既存の枠組みに沿って運営することで、私たちのチームは滑り出しから、図書館を長期的に維持していくための土台を築くことに成功しました。

読み書き能力向上における実績

パートナーシップを通じて



よりパワフルに

政府や現地の組織、企業と協働することの相乗効果によって、私たちのプログラムははるかに強力なものとなります。2012年、識

字教育を支援する私たちの活動は、戦略的パートナーの専門的な知識と熟練した技能のおかげでさらなる深みを得ました。また、現地政府ともより一層の協力関係を結び、現在活動を行っている個々の学校の枠を大きく越えた規模で私たちの影響力を広げていくことを目指しました。

協力と責務の共有を通して、私たちはプログラム参加国の教育面において、長期的かつ体系的変化を生むことが可能だと信じています。

有能な人材の力を借りて



これまで数多くの受賞作品を生み出してきた作家やイラストレーターたちは、

ルーム・トゥ・リードの最も重要なパートナーの類に数えられます。2012年、私たちはその成功のテクニックを磨き、スリランカとカンボジアで行われたイラストレーター向けワークショップにクリエイティブな専門性と技を追加すべく、ピクサー・アニメーション・スタジオの著名なエキスパート2人の支援を取り付けました。アーティストたちは、見た目に美しく子どもの興味を惹きつける作品を制作した自身の経験を元にインサイトを提供し、ルーム・トゥ・リードのイラストレーターらがそれぞれのスキルを磨くための手ほどきをしました。

スワヒリ語に飛び込む



タンザニアに建設されたルーム・トゥ・リードの最初の図書館の本棚を埋めるため、私たちのチームは長年のパートナー

あるピアソン財団と協力し、タンザニアの公用語であるスワヒリ語で書かれた、魅力溢れる子ども向け図書2万冊を調達しました。「Junior African Writers Series (JAWS)」(ピアソン)や「Tinga Tinga tales」(BBC)から選ばれたこれらの本は、初版となるルーム・トゥ・リードのオリジナルのスワヒリ語作品と共に棚に並び、都市から離れたモロゴロ地域の若き読者たちに、多様性に富んだ貴重な図書資源を提供します。

図書室の方針策定



2012年、ルーム・トゥ・リードはインドにおける5,000室目の図書室開設を祝いました。過去10年間、国内各地で図書館・図書室を設立してきた私たちの成功を見たインドの教育省は、全州の学校図書室の指針として、ルーム・トゥ・リードの図書館・図書室マニュアルの活用を推奨しました。このパートナーシップを後押しする形で、チャッティスガル地区のルーム・トゥ・リードのスタッフは、政府役員やユニセフの代表者を対象に図書室運営に特化したトレーニングを実施し、マニュアルを実地で生かすための手助けを行いました。

カリキュラムへの影響力



ルーム・トゥ・リードの読み書き能力育成プログラムを導入している学校の教室状況を見たカンボジアの教育青年スポーツ省は、私

たちの1年生プログラムの概念や活動を参考に国のカリキュラムを改定しました。初級の識字能力育成のためのルーム・トゥ・リードのアプローチを多分に採り入れた新しい教科書が、カンボジア全土の1年生のクラス用標準教科書に指定されました。2年生のカリキュラムにも今後同様の改定を実施していく計画が進行中です。

知識を共有する



NGOの規制を管轄するネ

パールの政府機関である社会福祉委員会は、私たちの活動を評価し、ルーム・トゥ・リードが子どもたちの学習過程に大きな影響を与えていると結論づけ、政府がその活動をより積極的に支持していくべきと推奨しました。この実りとして、2012年、全国教育開発センター(National Center for Education Development)は、ルーム・トゥ・リードの「教育者のためのプロ人材開発」のベストプラクティスを政府の全国教師トレーニングプログラムに組み入れるという決定を下しました。私たちはまた、ルーム・トゥ・リードの活動対象外の学校図書館・図書室の支援に役立ててもらえるよう、図書館運営に関するトレーニングや本、モニタリングサービスを政府に提供しました。


話し合いをリードする



7月、ルーム・トゥ・リードのザンビアチームはユニセフおよび教育省との連携の下、同国初となる識字シンポジウムを主催しました。

大学教授、政府役員、ルーム・トゥ・リードのスタッフが集い、教育の優先項目について話し合いました。この協議を受けて、政府は初等教育における読み書き能力育成に主眼を置くという決意を新たにし、その一つとして、これまでは1年生のみだった母国語の指導を4年生まで必須にするよう国の教育方針を改定することを約束しました。





男女平等の教育機会を 実現する

ルーム・トゥ・リードの女子教育支援プログラムは、女子生徒が中等教育過程を修了し、人生の重要な決断において決定力を持つために必要となるスキルの習得をサポートします。

男女平等の教育機会を実現する

後ろ盾となる—



学校環境を築く

学校環境は、女子生徒たちの学習面および社会面での成功を保障するうえで重要なカギとなります。過去

数年の間に特定の学校の全女子生徒に対応できるようプログラムを拡大したことで、ルーム・トゥ・リードは学校全体における女子支援体制や学業達成度を向上に取り組むことができるようになりました。

学校の執行部と連携し、私たちは現在ある問題を明確にして、その一つ一つの解決を図っています。2012年、私たちのチームは全ての活動国において、これらの取り組みを標準化し、提携している学校の全女子生徒にとって安全かつ充実した学校環境を築くことに重点を置きました。

ライフスキルを学ぶ



全女子生徒を対象に活動を行うメリットの一つは、既存の学校のスケジュールに合わせてプログラム活動を企画できることです。例えば**ベトナム**では、ライフスキル（自立して生きるための能力）のセッションを他の選択授業も行われる土曜日に設けています。私たちのソーシャル・モビライザーが企画する授業に加え、土曜日のスケジュールには女子生徒のグループ単位でのメンタリング（気づきを通じた指導）も含まれます。選ばれた女子生徒たちがリーダーとなって、他の選択授業に参加している生徒たちとのディスカッションがスムーズに進むように導き、女子生徒たちが学校の内外で経験しているあらゆる問題を取り上げる、より非公式な話し合いの窓口を提供します。

教員向けツール



中等学校における活動の中で最も重要な点のひとつが、活動地域の多くの地域社会に根深く存在するジェンダー（性別に対する社会意識）の偏見の払拭を図り、教室にそれが持ち込まれないようにすることです。**インド**のチャッティースガルでは、2日間にわたって、性別に左右されない平等な指導を目指して教師たちの意識を高め、また必要なツールを提供する「ジェンダーの平等のための指導ワークショップ」を実施しました。ネガティブな学校環境は、女子生徒たちの学業上のパフォーマンスや学校に対する意欲を大きく低下させることになりうるため、こうしたワークショップでは指導上の平等を実現する上でよくある障壁を取り上げ、ジェンダーの平等に対する意識の高い教室環境を作ることに主眼が置かれました。

ABCを習得する



全ての活動国において、定期的な個別指導や各試験に特化した試験前準備セッションといった学業面でのサポートは、私たちのプログラムの中核の要素です。2012年には、中等学校への入学試験が英語で行われる**ザンビア**で、英語の学力が女子生徒の進学において主要な障害要素となっており、学習面での特別な支援が必要であるという現状が明らかになりました。

この問題に対処すべく、ルーム・トゥ・リードのスタッフは政府役員や現地組織と協議を行い、アクションプランを組みました。入手可能なデータを分析して選択肢を話し合った結果、チームは6年生から8年生の少女たちを対象にしたリーディングの補習プログラムを実施することを決定しました。英語の習熟度における問題を取り上げ、対処することで、私たちのチームは女子生徒たちが全ての科目において成績を伸ばし、自信を高めていってくれることを願っています。

将来に向けた—



備え

女子生徒たちの中等学校修了を支援することは、私たちの女子教育支援プログラムの主要な目標であり、それは変わることはありませんが、卒業後の歩みもまた同様に重要です。私たちのプログラムでは、少女たちが中等教育課程や卒業後に直面する人生の重要な決断を下す時に助けとなる、スキル習得の支援もしています。中等教育課程を修了した私たちのプログラムの卒業生は、それぞれ家庭やキャリアにおける多くの選択肢を前にします。大学や専門学校といった高等教育を目指すことも、小規模事業を起業することも、あるいは女性初の村のリーダー的役割を担うことも可能です。

2012年、私たちのチームは少女たちがそれぞれ希望する道に進む手助けをし、この人生の転換期をスムーズなものにするための資料や戦略の開発に一層の力を注ぎました。

スムーズな転換



私たちのプログラムに参加する少女たちは、それぞれの家庭で初めて中等学校に進学あるいは修了したケースであることが大半です。よって、卒業後の進路は全く馴染みのないものであることも珍しくありません。これは**バングラデシュ**で特に顕著で、都市から遠く離れた私たちの活動地域の性質上、支援する家庭の多くが孤立した環境下にあります。2012年、チームはこの対処に向けて歩を進め、少女たちやその家庭を対象に、中等学校修了後に進むことのできる様々な進路選択を提示しました。これにはハンドブックの制作と配布も含まれ、少女たちが将来を思い描くうえで役に立つ事情背景や情報を提供しました。「**Aim in Life**（人生の目標）」と称されたこの新しいハンドブックは、少女たちが両親と将来の計画について話し合うためのガイドとなります。このハンドブック、「**Aim in Life**」の初版は、シラジガンジ地区の800人以上の参加者が集ったプロジェクトの立ち上げイベントで配布されました。この式典では、**バングラデシュ**でプロのキャリアを持つ著名な女性たちが少女たちに成功秘話を語り、夢を大きく持つように激励の言葉を送りました。

企業家としてのはじめの一歩



ゴールドマン・サックスの「10,000 Women（1万人の女性）」との連携の下、**インド**で選ばれた12年生（上級中等学校最高学年、日本の高校3年生にあたる）の少女たちが1日限定の起業・事業運営の機会を得ました。予算決定、企画、義務・責任に関するセミナーに出席した後、各女子生徒はリソースやマーケティング活動、プロジェクト成功のために必要な人員などを詳細に定めた事業計画を作成しました。ルーム・トゥ・リードの女子教育支援プログラムへの参加を通して学んだスキルや、新たに得たビジネスの眼識を活用し、少女たちは考案したベンチャービジネスに乗り出して企業家としての実体験を得ました。

スキルを実践に



カンボジアの**シムリアップ**州で私たちのプログラムに参加している一部の少女たちが、ライフスキルトレーニングと合わせて働く実体験を得たいと興味を示しました。この希望に応えるため、女子教育支援プログラムと読み書き能力育成プログラムの2チームが連携し、22人の女子生徒たちを対象として、私たちの「リーディング能力調査」のデータ収集インターンとなるために必要な知識や、評価ツールに関するトレーニングを実施しました。トレーニングを終えて12人の生徒たちが正式にインターンとして認定され、シムリアップ州全域の小学生の読む力を評価する課程において、アシスタントとしての任務を担いました。

少女たちは実体験を得られただけでなく、コミュニケーションや他者との関係作り、批評的思考といったその他のスキルも実践することができました。調査終了時には、各インターンは責任感とプロ意識を持ってデータ収集の仕事を遂行したという評価を受け、推薦状を受け取りました。

男女平等の教育機会を実現する

家族と地域社会の—



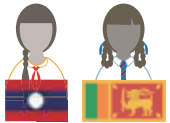
関与を促す

アジアやアフリカ地域で、女子生徒が男子生徒と同様の割合で中等教育課程を修了できない

原因には、単なる経済的理由以上のものがあります。そこには伝統や文化的背景、そして安全性の面での障壁が立ちはだかることがしばしばです。よって、教育における男女格差の是正を促進するうえでは、女子生徒の学業を維持させる重要性に関してコミュニティ全体を動かして初めて、その長期的な効果を実現することができます。

2012年、私たちは保護者やコミュニティの代表者らをプログラムに参加させることにおいて、継続した成功を収めることができました。私たちはまた、対象コミュニティの男性や少年たちが話し合いに参加するよう奨励し、性別に関係なく学生たちを支援する環境作りにおいて、彼らの積極的な関与を促しました。

舞台の上で



ラオスとスリランカの生徒たちは、演劇の力を利用して、それぞれの学校におけるジェンダーの平

等を支援しました。ラオスチームは、10月の制定後初となる国際ガールズ・デーに、少女たちがルーム・トゥ・リードの現地語図書から採用した物語のシーンを演劇で表現したり、少女の立場から地域社会において経験する障壁について個人の体験談を共有したりしました。

スリランカでは男女の生徒たちが集い、「Bible Scholars（聖典の学者たち）」という演劇グループを結成しました。女子教育の重要性に主眼を置いたオリジナルの演劇は、全国放送されたスリランカの「全国子ども演劇フェスティバル」の参加権を得ました。

ラジオを通じて

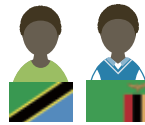


私たちが活動する各地域社会において、ラジオは最も場所を選ばない民衆のコミュニケーション手段です。インドのウッターカンドのチーム

は、国際女性デーに地元のラジオ局とタッグを組み、新しいの番組を届けました。私たちの女子教育支援プログラムに参加する10人の少女たちと2人のソーシャル・モビライザーが、放送波を通じて個人の体験談を共有し、少女教育の威力を提示しました。番組は広い地域で遠方まで放送され、少女一人一人が将来に向けた抱負や希望、そし

て非常に多くの障壁に直面しながらも学校で成功を取めている様子を語りました。

保護者を育てる



私たちの女子教育支援プログラムにおいて、保護者の参画は非常に重要な要素です。2012年にタンザニアで初めてプログラムを始動した際、チームはすぐさま各学校で保護者委員会の結成に着手しました。委員会は毎月100人もの参加者が集まる定例会を実施し、それぞれ役員を選出して、ルーム・トゥ・リードのスタッフと協力しながらプログラムに参加する女子生徒一人一人の通学状況を監視する責任を負います。

ザンビアのカフェ地区で活動する私たちのチームは、少女たちに教育を受けさせることで得られる健康面、高収入を得られる将来の可能性、また個人の安全におけるより大きなメリットについて、保護者の理解を深める支援の提供を目指しました。私たちは保護者や村の代表者らを集め、教育における男女格差をなくす重要性について話し合いました。また、その後の追加協議では、地元警察の被害者支援部門も参加し、女子教育とジェンダーに起因する暴力防止の関連性にスポットが当てられました。

擁護者としての役割



都市から離れたネパールのバルディア地区で私たちが支援する少女たちの多くは、最近、同国の債務奉公（少女強制労働）制度である「カムラリ」から救出されたばかりです。私たちのプログラムの成功は、少女たちを初めて学校に通わせる手助けをすることに限らず、「カムラリ」制度の影響を受けた地域社会においてより広い理解を養うことが不可欠です。2012年、私たちは「カムラリ」を経験し、落ちこぼれとなる恐れのある少女たちの特別なニーズについて、保護者や教師たちを教育するセミナーを実施しました。また、コミュニティへの情報提供セッションも設け、児童労働や債務奉公がすでに違法となっているという法的視点からの説明を行いました。プログラムに参加する少女たちの多くは地元の会議にも参加し、状況の改善に貢献すべく、コミュニティの代表者らに債務奉公少女としての体験談を話しました。

成功の評価と データ活用

ルーム・トゥ・リードでは、「数値で評価できるものは実行できる」という格言を実行しています。進歩を把握し個々のプロジェクトのモニタリングを行うことは、創設当時から私たちのDNAの中核にありました。2012年、私たちは調査・モニタリング・評価の分野における注力を高め、データ分析と評価をプログラム設計の向上に生かすことに重点を置きました。

2012年の活動成果

1,925室

図書館・図書室
を設置

15,089室

これまでの総計

84

学校建設が
完了

1,676校

これまでの総計

167作品

現地語出版
プロジェクト
出版タイトル数

874作品

これまでの総計

1,005校

読み書き能力育成
プログラムの支援を
受けている学校

17,740人

女子教育支援
プログラムの
参加者

20,375人

これまでの総計

780万人

今日まで
支援を受けた子ども

サステナビリティにスポットライト

2012年、ルーム・トゥ・リードは、図書館・図書室プログラムのサステナビリティ（長期維持可能性）を追求するための多国籍調査を完了させました。この調査のためのデータ収集は、ビル&メリンダ・ゲイツ財団の後援を受けた独立評価者が同行し、私たちのプログラムから“卒業”し、現在ルーム・トゥ・リードの支援なしに運営しているカンボジア、ネパール、南アフリカの517の図書館・図書室を訪問して行われました。調査の第一フェーズの結果では、98%の図書館・図書室がまだ独立して機能しており、ルーム・トゥ・リードがプロジェクト向けの3年間のトレーニングおよびサポート期間を設けるようになってから、サステナビリティが25%向上した実態が明らかになりました。第二フェーズでは、詳細なインタビューやフォーカスグループなど、小グループに分けた図書館ごとの質的評価に関する情報収集を行い、長期的な成功に寄与している要素を明確にしました。

成功への枠組み

継続的な評価・査定は、学びの過程において不可欠な要素です。2012年、読み書き能力育成プログラムチームは、活動を行う提携校において、教師（および私たちのスタッフ）が生徒の進歩を把握するための枠組み作りに専心しました。私たちはまず、すでに実施している評価を、教員がプロとして教える力を開発する取り組みの重要な要素として定義しました。そして、生徒たちのスキルに合わせてどのように“スポットチェック”（抜き打ち試験やその時々理解度チェック）を利用して適切に授業を工夫していくべきかを教師たちが学ぶサポートをしました。その後、チームはプログラムの成果を評価するための評価基準を作成し、人口統計上類似した、ルーム・トゥ・リードの支援を受けていない学校の

生徒と、プログラムに参加している生徒たちとの比較を行いました。これには、1年を通じた進歩の推移を示す長期的評価と、特定の時点における生徒のリーディング能力の分析が可能な“スナップショット”評価が含まれます。このスナップショット評価を最初に実施したのはバングラデシュのチームで、私たちのプログラムに参加している1年生のうち40%が1分間で少なくとも40個の単語を読むことができるという結果が出ました。一方、比較対照の学校の生徒と同様の成績を達成できたのは、10%に満たない割合でした。

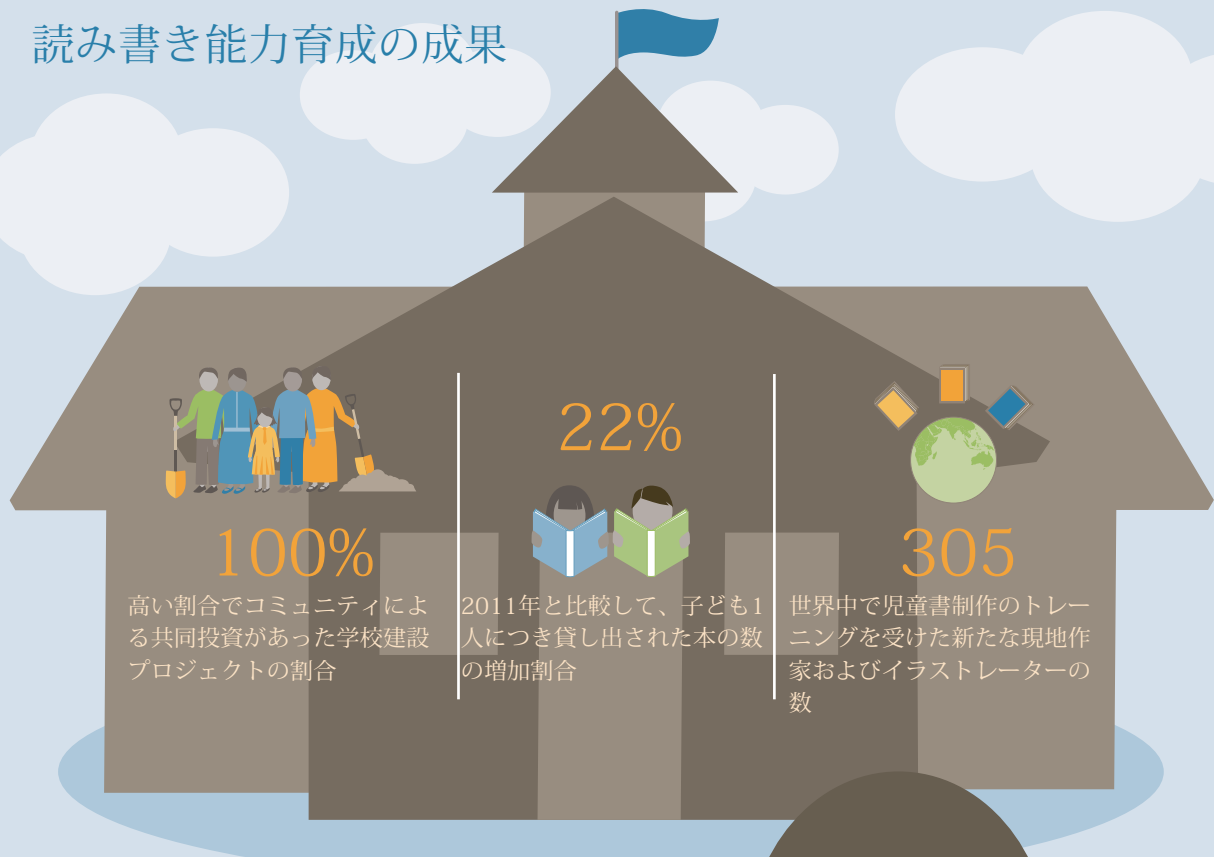
インタビュー調査

常に図書館・図書室やそこに並ぶ本の質の向上を目指すルーム・トゥ・リードは、カンボジアでどんな本が若き読者たちの興味を引くのかについて理解を深めるべく、詳しい調査を実施しました。テキサス大学の研究者たちがカンボジアの4つの図書館で綿密なインタビューを行い、2012年の報告書で、ルーム・トゥ・リードの出版する本が極めて高い質を誇るという結論を発表しました。同報告書はまた、初級読者向け教材とノンフィクション本の2種類の図書について、より多くの生徒の手に届くよう、部数を増刷して私たちの図書館・図書室に並べるべきであると推奨しています。2012年後期に、私たちのチームはカンボジアで実施されたこの調査の手法と結果を用いて、本の原稿段階で実施する試験的なフィールド調査のグローバルなガイドラインを作成しました。

ライフスキル評価

ライフスキルトレーニングは、女子教育支援プログラムおよび中等学校修了後の少女たちの人生の成功の両方において、要となるものです。各地域や世界全体の傾向に加え、少女たち一人一人の進歩も確実に把握できるよう、私たちは2012年、ルーム・トゥ・リードのライフスキル・カリキュラムの有効性を測る評価基準を設定しました。2013年には、これらの新しい評価ツールやテクニックがアジアやアフリカ地域の各地で試験的に導入される予定です。

読み書き能力育成の成果



男女格差のない教育の促進における成果



94%

世界各地のプログラム維持の割合



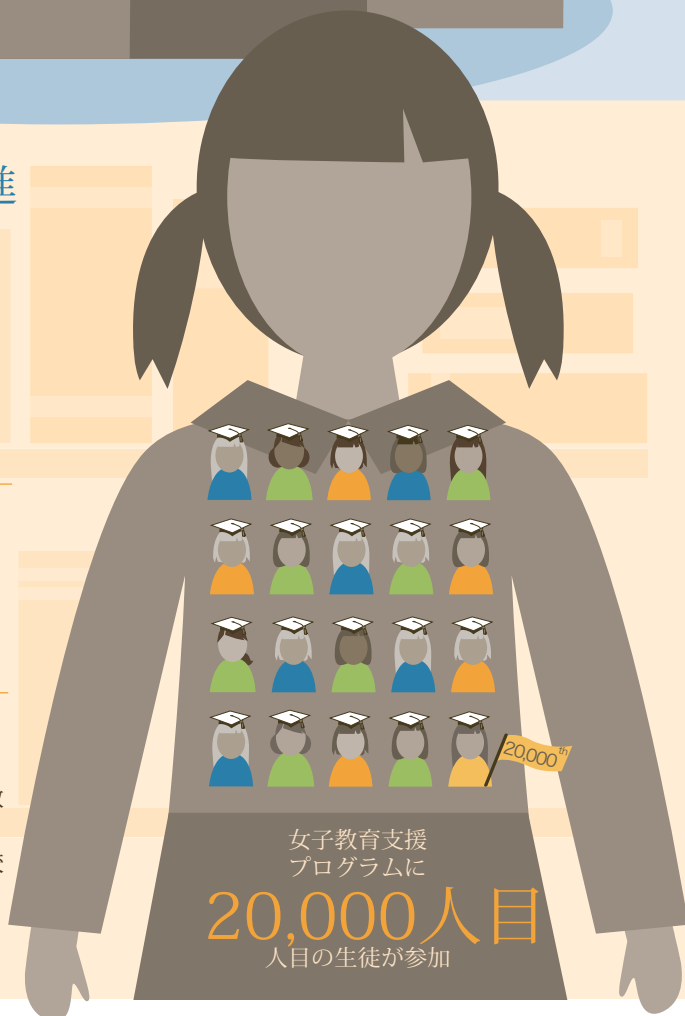
798

私たちのプログラムを完了した中等学校の数



1st

ザンビアで一番最初に女子教育支援プログラムのサポートを受けた少女たちが中等学校を卒業し、女子卒業生ネットワークに参加



女子教育支援プログラムに
20,000人目
人目の生徒が参加

グローバルムーブメントを起こす

2012年、ルーム・トゥ・リードはグローバル組織としての立場を一層強化し、識字および少女教育におけるリーダーとしての地位を維持してきました。主要なメディアイニシアチブや戦略的な講演の機会、素晴らしいチャプターネットワークによる支援、そして革新的なパートナーシップを通じて、私たちの活動に対する意識は高まる一方です。



私たちのチャプターネットワーク

ルーム・トゥ・リードのチャプター（ボランティア拠点）は、組織の成長とサステナビリティにおいて必要不可欠な役割を担っています。チャプターのメンバーは世界各地で、組織のアンバサダー（大使）として、そしてファンドレイザー（資金調達者）として貢献しています。






メディア掲載







企業・団体スポンサー


企業、財団、政府のパートナーの皆様からの資金および物資の援助により、ルーム・トゥ・リードはビジョンを拡大することができます。2012年に私たちが受けた全援助の4割近くを貢献してくださったこれら企業・団体パートナーの皆様は、私たちの取り組みに不可欠な資金の提供に留まらず、それぞれのネットワークにおいて、私たちのミッションに関する意識を広めてくださっています。


 **Artha Capital** アーサ・キャピタル社は、女子教


育支援プログラムに加えて、アジア各地に建設された図書館・図書室や学校への資金提供という形で、ルーム・トゥ・リードにご協力くださっています。アーサ・キャピタル社にはまた、読み書き能力の育成および教育における男女格差の是正に焦点を置いたプログラムを通して子どもたちの人生を変える、というルーム・トゥ・リードのミッション遂行に非常に重要なプロジェクトの開発や強化においても、資金援助をいただいています。


 **Atlassian** アトラシアン社は1ライセンスあたり10米ドル（2013年7月の時点で約1,000円）で販売している新規企業や小規模チーム向けのフルサポート付ソフトウェアのスターター・ライセンスの収益金を、本来ならアトラシアン社の新事業創出を助ける資金であるところを、全額ルーム・トゥ・リードに寄付してくださっています。このイニシアチブを通して、アトラシアン社からはアジア地域におけるルーム・トゥ・リードのプログラムに250万米ドル（2013年7月の時点で約2億5,200万）の資金援助をいただいています。同社のサポートによって、ルーム・トゥ・リードを通じて支援を受ける子どもたちの数は、2014年末までに、25万人に達しようとしています。

 **BARCLAYS** バークレイズ社は2008年以来ルーム・トゥ・リードと提携し、図書館・図書室建設、現地語出版、女子教育支援のために資金提供をしてくださっています。これらのプログラムを通じて、カンボジア、インド、ネパール、スリランカ、ベトナム、南アフリカの9万人を越える子どもたちに支援が届きました。また、世界中の同社社員もルーム・トゥ・リードの活動に関わってください、資金調達イベントへの参加や私たちの組織の活動についての啓蒙活動もしていただいています。さらにバークレイズ社には、百万人近い少女たちの教育の強化を目指す「クリントン・グローバル・イニシアチブ」へのルーム・トゥ・リードのコミットメントにもご支援をいただいております。

 **BILL & MELINDA GATES foundation** ビル&メリンダ・ゲイツ財団には6年間にわたる助成金提供を受け、ルーム・トゥ・リードの戦略的計画における取り組みならびに、図書館・図書室プログラムや現地語出版プログラムの国際比較評価の分野でご支援をいただいています。また、同財団には、ルーム・トゥ・リードの支援終了後の学校の図書館・図書室の維持管理の成功について、どのような要素が寄与しているかを調査する図書館・図書室設立後調査においてもご支援をいただいております。さらに図書館職員、教師、生徒たちの有効な図書の利用に焦点を当てた図書資源活用に関する調査にもご協力いただく予定です。

 **Bloomberg** ブルームバーグ社は不利な立場に置かれた青少年が成功の面で劣る部分（アチーブメントギャップ）を改善し、また雇用される能力を向上させるという長期的な目標のもとで教育水準を上げるといふ先駆的なアプローチを後押ししています。同社には2008年よりルーム・トゥ・リードのパートナーとしてご参加いただき、アジアの読み書き関連プログラムにおいて、50万冊の現地語の図書やストーリーカードなどを届ける資金援助をいただきました。さらに2012年からは、アジアの女子教育支援プログラムに参加する2千人以上の少女たちを3年間にわたって支援していただいています。

 **CATERPILLAR** キャタピラー財団は、1,200人の少女たちに4年間の中等教育を提供するとともに、インドとベトナムの1万6千人以上の子どもたちが利用できる50の図書館・図書室設立をご支援くださっています。

 **CREDIT SUISSE** クレディ・スイス社は、ルーム・トゥ・リード最大の企業スポンサーの一社で、現在、同社のグローバル・エデュケーション・イニシアチブを通して、読み書き能力育成プログラムおよび女子教育支援プログラムにご支援いただいております。また同社には、香港、ロンドン、東京、シドニーを拠点とするルーム・トゥ・リードスタッフに、無償でオフィススペースをご提供いただいております。



ゴールドマン・サックス社お
よび「ゴールドマン・サックス
・ギブズ」プログラムを通して

て、同社とその上級経営幹部の皆様には、ルーム・トゥ・リードに何百万ドルものご支援をいただいています。また、ゴールドマン・サックス「10,000 Women (1万人の女性)」プログラムを通して、インドでの女子教育支援プログラム向けのアントレプレナー・スキルパッケージ(起業家スキル養成トレーニング)をサポートいただいております。さらに3年間にわたって400人の女子高校生の包括的な教育の実現にもご尽力いただいています。ゴールドマン・サックス「1万人の女性」は、世界中で恵まれない立場にある1万人の女性たちにビジネスやマネージメント教育を提供することでより高度な経済成長を共有し促進する、1億ドル(2013年7月の時点で約101億ドル)をかけた5年間のキャンペーンです。



2012年、現地語出版プログラムへの投資を通して、オリジン財団はルーム・トゥ・リードのインドネシアへの活動範囲拡大に多大なるご支援を提供してくださいました。プログラム運営が開始されれば、オリジン財団の資金援助により、私たちは新たに15の現地語の子ども向け図書を制作することができます。



スクール財団は、ルーム・トゥ・リードがアジア・アフリカ地域で複数の国にまたがる活動を広めていくための、組織能力の構築における取り組みをご支援くださっています。社会起業家のリーダーシップを評価、表彰することで、スクール財団は、人事、プログラム設計や開発、資金調達、モニタリングおよび評価におけるルーム・トゥ・リードの主要なイニシアチブに対して、核心となるご支援をくださいました。



ルーム・トゥ・リードは、アメリカ合衆国国務省南・中央アジア局と連携し、南アジアでの教員・図書館司書向けトレーニングや、現地の作家やイラストレーターのスキル育成イニシアチブを支援しています。国務省にはまた、南アジア全域にわたって図書館の設立、現地語図書の制作、さらには女子教育支援プログラムにもご助力いただいています。



シマンテック・コーポレーションはこれまで、女子教育支援プログラムを通して何百人もの少女を支援してくださっています。同社はまた、運営やプログラム上において中核となる支援を提供して、インドのマハラシュートラにおける私たちのプログラム導入に貢献してくださいました。さらに同社には、インド全域での私たちの識字関連プログラムの拡大にご助力いただいています。

主要な企業・団体スポンサー (1/1/2012-12/31/2012)

50万米ドル以上のご寄付

アルタ・キャピタル社
アトラシアン財団
バークレイズ社
ビル&メリнда・ゲイツ財団
クレディ・スイス社
ゴールドマン・サックス社
アメリカ合衆国国務省南・中央アジア局

250,000~499,999米ドル

キャタピラー財団
オリジン財団
ラジャワリ財団
スコール財団
シマンテック・コーポレーション

100,000~249,999米ドル

バーガーキング マクラモア財団
フォッシル(イースト)・リミテッド
フォーエイカー・トラスト
ヒルトン・ワールドワイド
ジョーンズデー財団
リライアブルソース・インダストリアル社
ロイヤルバンク・オブ・スコットランド
チャリタブル財団
シャーウッド財団
タイガーベンチャーズ・リミテッド
東京海上日動火災保険株式会社
ユニセフ

50,000~99,999米ドル

アビームコンサルティング株式会社
ベター・ワールド・ブックス
ボル・ドットコム
C12キャピタルマネージメントLP
クリフォード・チャンス財団
CLSAアジア・パシフィック・マーケッツ
コーチ財団
ダイニング・コンセプツ社
ドッジ&コックス社
ゲイヴカル・エンドウメント・リミテッド
グーグル社
ホグランド財団
ホレイス W. ゴールドスミス財団
インマアット財団
ICAP(香港)・リミテッド
ICICI財団
ルルレモン社
マイクロソフト社
ニューマンズ・オウン財団
スクイドウー
シンファシス・チャリタブル財団
トールミーズ財団
ユナイテッドウェイ・ワールドワイド
(ターゲット・コーポレーションを代表)

主要な物資・サービス寄贈団体

ベリー・ブラザーズ&ラッド社
ブラザーズ・ブラザー財団
シスコシステムズ株式会社
クレディ・スイス社
ファイナンシャル・タイムズ社(ピアソン)
ヒルトン・ワールドワイド
ケッチャム社
ラファージ社
レノボ社
モエ・ヘネシー・アジアパシフィック社
リライアンス・キャピタル社
アジア財団

2012年決算報告書

グローバル組織として、私たちは健全な財務管理、透明性、説明責任がチーム一人一人に課せられた義務であると認識しています。私たちの組織体質はこれらの価値観を中心に育まれ、国境を越え、組織の全レベルにおいて浸透してきました。2012年も私たちは引き続き、長期維持可能な収益拡大の基礎を築くことに焦点を定めました。さらに、将来の規模拡大や成功につながる組織能力の強化にも、戦略的な投資を行いました

財務ハイライト

4,030万米ドル

現金によるご寄付

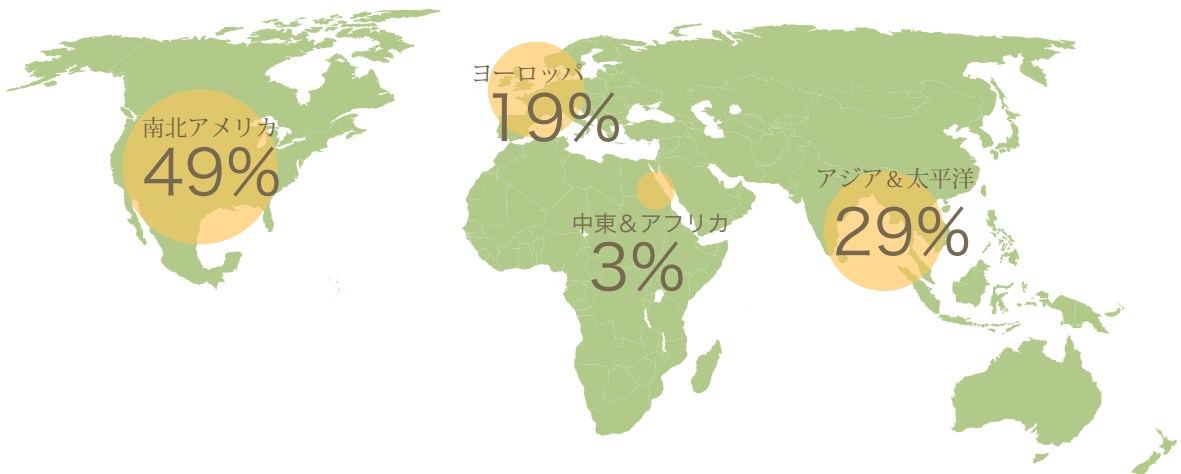
280万米ドル

物資・サービスによるご寄付

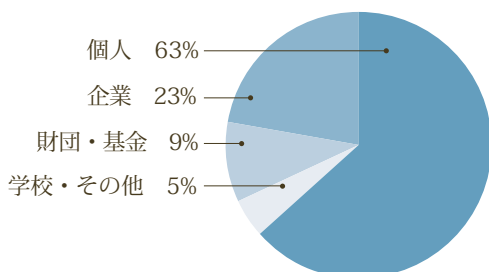
83%

プログラムに利用された割合

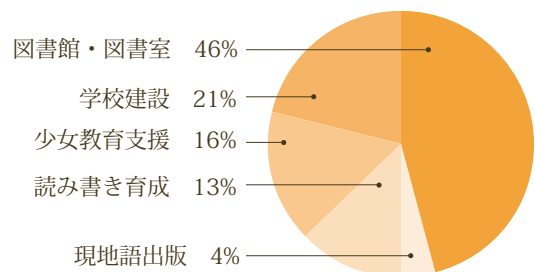
地域別収益源



投資者タイプ別寄付の割合



プログラム別出資内訳



活動報告書

2011年12月期および2012年12月期（米ドル）

支援および収益	2012	2011
企業	\$9,204,733	\$9,238,776
財団・基金	\$3,867,878	\$3,704,282
個人	\$25,285,323	\$28,312,469
学校・その他	\$1,933,798	\$988,193
寄付合計	\$40,291,732	\$42,243,720
物資・サービス寄付	\$2,784,397	\$6,387,965
投資およびその他収益、特別イベント出資、諸費用	\$180,131	\$(342,048)
支援および収益合計	\$43,256,260	\$48,289,637
運営経費	2012	2011
プログラム運営		
図書館・図書室	\$7,260,323	\$8,506,055
図書・物資寄贈	\$4,259,626	\$2,631,625
学校建設	\$5,743,317	\$5,111,854
女子教育支援	\$2,724,477	\$2,544,196
現地語出版	\$812,429	\$691,103
読み書き能力育成	\$1,741,344	\$1,305,372
会議費・旅費	\$2,430,187	\$2,322,244
情報技術費	\$848,457	\$901,840
モニタリング・評価	\$940,608	\$745,096
専門家報酬	\$509,015	\$864,313
プログラム経費	\$2,106,875	\$2,060,738
プログラム人件費	\$12,508,038	\$9,895,582
プログラム運営費合計	\$41,884,696	\$37,580,018
運営・管理費	\$2,653,069	\$2,646,068
資金調達活動	\$5,551,692	\$4,425,170
運営経費合計	\$ 50,089,457	\$44,651,256
換算調整	\$(38,984)	\$(298,868)
非拘束純資産の変動	\$(5,644,289)	\$(2,016,298)
一時拘束純資産の変動	\$(1,227,892)	\$5,355,811
期首非拘束純資産	\$3,303,690	\$5,319,988
期首一時拘束純資産	\$21,058,214	\$15,702,403
期末純資産	\$17,489,723	\$24,361,904

ルーム・トゥ・リードの財務報告書は、認定を受けた独立公共会計士によって監査されており、ホームページ上でも入手可能です。

理事会役員、諮問委員および職員

マネジメント・チーム

エリン・ガンジュ：
共同創設者 兼 最高経営責任者

ジョアン・チョウ：最高財務責任者

リン・フォーデン：最高国際運営責任者

コリー・ヘイマン博士：
最高プログラム責任者

ギータ・ムラリ博士：最高開発責任者

ピエール・タウンズ：最高人材活用責任者 (CFO)

インターナショナル・ディレクター

ジョン・ポーリュー：
アジア地域担当ディレクター

ウンメシュ・ブラメ：
インド カントリーディレクター

サマンサ・チューラ：
ザンビア カントリーディレクター

ザキ・ハサン：
バングラデシュ カントリーディレクター

シェヴァンティ・ジャヤスリヤ：
スリランカ カントリーディレクター

カール・カーン：
カンボジア カントリーディレクター

ティエン・フォン・レー：
ベトナム カントリーディレクター

クリストファー・モスピ：
南アフリカ カントリーディレクター

テオドリ・ムワロンゴ：
タンザニア カントリーディレクター

ラメシュ・プーリ：
ネパール カントリーディレクター

ディネシュ・シュレスタ：
共同創設者 兼
フィールドオペレーション・ディレクター

ノーカム・スーパノヴァン：
ラオス カントリーディレクター

理事会役員

ジョン・ウッド (共同理事長)：
ルーム・トゥ・リード創設者

ティム・クーグル (共同理事長)：
Yahoo! 元最高経営責任者

ユスフ・アリゼラ：
ノーベル・グループ最高経営責任者

クレイグ・ブルイェ：
マイクロソフト・ビジネス・
ソリューションズ元最高財務責任者 (CFO)

ピーター・T. グラアー：
ブルームバーグL.P. 会長

スコット・キャプニック：
ハイブリッジ・キャピタル・
マネージメント共同経営者

ジェリー・デルミシエ：
パークレイズ銀行 元最高業務執行責任者
(COO)

キム・アンスタット・モートン：

『10x10』およびエッジウッド・アーツ
(サンフランシスコ) 顧問委員

フェルナンド・ライマーズ博士：
ハーバード大学 グローバル教育および
国際教育政策ディレクター

ジョン・リディング：
『ファイナンシャル・タイムズ』紙
最高経営責任者

名誉理事

ヒラリー・バレンタイン (理事長)：
ブラック&ホワイト・デザイン社 共同経営者

クリス・ビア：
アイアンマーク・ロー・グループ創設メンバー

アラスデア・マクタガート：
エメラルド・ファン্ড社長

ムニール・サッター：
サッター・インベストメント・
マネージメント会長

ジェニー・シリング・ステイン：
ドレイパー・リチャード・カプラン財団執行役員

クリス・ビアへの特別な感謝を込めて

2004年以来、クリス・ビアは私たちの理事会役員として、また主要な法務アドバイザー、ボランティア、サポーターとして、ルーム・トゥ・リードの創設ならびに継続的な成功において測り知れないほど重要な役割を担ってきました。3期にわたって理事会役員を務め、任期を全うした彼は、今後は新たに設置された名誉理事会の一員となります。

1999年から最初に組織内で法務役のポジションが設けられた2008年まで、ルーム・トゥ・リードの主要な法務・ガバナンスアドバイザーとして尽力したクリスは、ルーム・トゥ・リードが今日まで恩恵を受けている法的基礎の構築において、実に中心的な役割を担いました。法的分野における数え切れないほどの貢献の中で、彼はまずルーム・トゥ・リードの土台となった「Books for Nepal (ネパールへ本を)」を法人組織化し、私たちの定款や付則を作成し、そして法的なグローバル構造を築きました。

ルーム・トゥ・リードは、クリスが私たちのミッションに対して示してきた揺るぎのない献身の姿勢と、専門家としての助言や知識の共有のために費やしてきた途方もないほど多くの時間に対して、ただただ深く感謝しています。私たちは、彼が名誉理事会を通して、今後もその法的側面における眼識、情熱、献身を持って継続した支援を提供し、ルーム・トゥ・リードのファミリーにおける中心的メンバーであり続けてくれることを心から光榮に思っています。



グローバル・アドバイザー ・ボード

ジョン・ボサムリー：
フォーエーカー・トラスト創設者 兼 理事

アーネスト・チョウ：
センサトキャピタル・マネージメント
共同経営者 兼 創設者

ルイス・クラウチ博士：
教育のためのグローバル・パートナー
シップ (GPE) 「グローバル・グッド・
プラクティス」 チーム・コーディネー
ター

ロブ・フラハティアー：
ケッチャム社 シニア共同経営者ならび
に社長 兼 最高経営責任者

ディール・ジングラン：インド「子ども
の権利保護全国委員会」教育の権利
部門 ナショナルコーディネーター

スーザン・ロッジ：
サザビース・インターナショナル・リ
アリティ不動産エージェントおよびル
ーム・トゥ・リード・アスペンチャプ
ター共同リーダー

アディ・ラウディアデイス：
ゴールドマン・サックス共同経営者

メリッサ・J. マー：
アジア・オルタナティブス・マネージ
メント LLC

パット・マクドウェル：
クラウド・ナイン財団創設者 兼 理事長

アルル・メネセス：
マイクロソフト・リサーチ社 上役ソフト
ウェアアーキテクト

シャーリー・ミスケ博士：
ミスケ・ウィット&アソシエイツ社長
兼 シニア・コンサルタント

キャレン・マンディ博士：
トロント大学リサーチ副学部長 兼 「グロ
ーバルガバナンスと教育改革」カナダ・
リサーチ会長

ステイシア・オブレムスキー：
ウィ・ケア・ソーラー社 暫定最高財務責
任者

カヴィタ・N. ラムダス：
フォード財団インド、ネパール、スリラ
ンカ代表

M.R. ランガスワミ：
サンド・ヒル・グループ LLC 共同創設者

キャロル・クヌース・サコイアン博士：
スカラスティック・インターナショナル
国際事業開発部 副部長

ティム・ウッド：
グラミン財団モバイル・ヘルス・イノベ
ーション部 取締役

リージョナル・ボード

アジア太平洋

オサマ&ララ・アバシ
ユースフ・アリレザ&ディナ・クレイノ・アリ
レザ

ダニエル&ダウン・ディース
L. ブルックス&ローラ・エントウィッスル
カール・ハッテンロッチャー&タミコ・M. リ
ピット

グラハム・ポーター&ウェンディ・ルング
ロバート&カレン・モリス
ゾルタン&タマラ・ヴァーガ
レイモンド&カオリ・ザーゲ

オーストラリア

スティーブ&キャリー・ベロッチイ
マイク&アニー・キャンノン・ブルックス
ブレット&ザウラ・ゴッドフレ
マイク&シンシア・ウエラン

ニューヨーク

メアリー・パイロン
ピーター・T. グラアー
スコット・カプニック
ジャイディープ・カンナ
ステファン&ジェーン・キング
ジョン&ダッドリー・マクファーレーン
ディヴィッド&ジャッククリーン・マーティン
アロン・ニーマン
エリック&シャウナ・ヴァーヴェル

英国

アナリサ・ブレロ
ケヴィン&アリサ・バーク
マリサ・ドリュー
マーティン・ゴワー
ダグ・ヘンダーソン
シンドウ・ホーダー
スコット・ミード
ジョン・リディング
ランディ・ワーク



Room to Read®

グローバル・オフィス

Room to Read

111 Sutter Street, 16th Floor

San Francisco, CA 94104

United States

+1 415 561 3331

香港・ロンドン・ムンバイ・ニューヨーク・シドニー・東京

www.roomtoread.org

ジャパン・オフィス

特定非営利活動法人

ルーム・トゥ・リード・ジャパン

〒106-6024

東京都港区六本木1-6-1

泉ガーデンタワー26階

japan.roomtoread.org

子どもの教育が世界を変える

ルーム・トゥ・リードは、読み書き能力の育成と、教育における男女の格差是正に焦点を当てることにより、開発途上国に住む何百万の子どもたちの人生を変えることを目指しています。地域社会やパートナー組織、政府機関と協働して、初等教育での読み書き能力と読書習慣を育成するとともに、少女たちが将来自立するために必要なライフスキルを身につけ、中等教育を修了できるように支援しています。

ルーム・トゥ・リードに事務所スペースをご提供頂いている以下の企業のご厚意に深く感謝申し上げます：クレディ・スイス（ロンドン、香港、シドニー、東京）、C12キャピタル・マネージメント（ニューヨーク）、リライアンス・キャピタル（インド）